

徒然なる1ページ2014

～俳句へのいざない～

俳句 秋の季語 中巻

FACEBOOK 投稿分

公益財団法人大谷教育文化振興財団

徒然なる1ページ制作チーム

『徒然なる1ページ 2014 ～俳句へのいざない～』は2014年(平成26年)FACEBOOKに投稿した日本独自の文化である俳句の季語を季節(春・夏・秋・冬)ごとに、それぞれ3巻(上巻・中巻・下巻)わけて刊行しております。

九月十三日

今日の季語のご紹介は“秋刀魚”(さんま)です。

日本の秋の味覚の代表格ではないでしょうか。

大正時代、佐藤春夫氏の詩によりこの表記が広まりましたが、以前は「サイラ(佐伊羅魚)」「サマナ(狭真魚)」「サンマ(青串魚)」など、色々な呼び名が存在しました。

九月十四日

今日の季語のご紹介は“待宵”(まつよい)です。

十五夜前夜の月で、明日の明月を待ちわびる気持ちが表れていますね。

九月十五日

今日の季語のご紹介は“名月”(めいげつ)です。

旧暦八月十五日、この夜の月を「仲秋の名月」いいます。日本では平安時代より貴族の間で観月の歌を詠んだり、舟遊びをしてお月見の催事を楽しんだといわれています。

九月十六日

今日の季語のご紹介は“梨”(なし)です。

水分たっぷりで、シャリシャリとした歯ごたえが美味な果物です。

「日本書紀」では梨の栽培を推奨しており、古来より日本人に愛されていた様がよくわかりますね。

九月十七日

今日の季語のご紹介は“鈴虫”(すずむし)です。

秋の虫の代表格ですね。リーン、リーンという澄んだ鳴き声に耳を傾けるのも、秋の夜長の楽しみの一つではないでしょうか。

九月十八日

今日の季語のご紹介は“秋思”(しゅうし)です。

夜が長くなり、物思いにふける秋。この何とも言えない寂しい気持ち、情懷を表す言葉です。

九月十九日

今日の季語のご紹介は“秋扇”(あきおうぎ・しゅうせん)です。

秋になって使われなくなった扇・団扇をさします。秋はなにかと物悲しい季語が多いですね。

九月二十日

今日の季語のご紹介は“芙蓉”(ふよう)です。

初秋に淡紅色または白色の美しい花を咲かせます。

「芙蓉」は蓮の花の美称でもあることから、とくに区別する時には「木芙蓉」(もくふよう)とも称されます。

他にも夕方になると紅色を帯びてくる「酔芙蓉」などがあります。

九月二十一日

今日の季語のご紹介は“自然薯”(じねんじょ)です。

元来は山に自生しており、秋になり葉や蔓が枯れてきた頃が収穫時期です。長さ1m以上のものあり、すりおろして「とろろ」にして食したり、和菓子の材料として用いられます。

九月二十二日

今日の季語のご紹介は“檸檬”(れもん)です。

原産国はインド北部。強い酸味と爽やかな香りが特徴で、お料理だけでなく、お菓子やお酒にも用いられます。

九月二十三日

今日の季語のご紹介は“撫子”(なでしこ)です。

秋の七草の一つで、古来より「ヤマトナデシコ」として親しまれています。花言葉は「純愛」「無邪気」

九月二十四日

今日の季語のご紹介は“葡萄”(ぶどう)です。

葡萄の歴史は古く、古代エジプトやメソポタミアですでに栽培されていました。

甘酸っぱい果実をそのまま頂くもよし、乾燥させてレーズンへ。またお酒やお酢・種からオイルまで抽出できる万能の果物です。

九月二十五日

今日の季語のご紹介は“運動会”(うんどうかい)です。

よく晴れた秋の日。風によって聞こえてくる行進曲に、つい鼻歌で乗ってしまう方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

九月二十六日

今日の季語のご紹介は“紅葉狩り”(もみじがり)です。

秋になり、色づいた紅葉を野山で楽しむ行事です。和歌の題材になるなど、紅葉をめぐる習慣は古来より日本に根付いています。

九月二十七日

今日の季語のご紹介は“糸瓜”(へちま)です。
ツル性の植物で、果実は大きなキュウリのような形をしています。
若い果実は食用に、成熟した果実はたわしなどに用いられます。

九月二十八日

今日の季語のご紹介は“露草”(つゆくさ)です。
朝咲いたお花がお屋にはしほむところが、朝露を連想させることから、「露草」と名付けられたという説があります。「万葉集」でも詠われており、古くから日本人に親しまれてきました。

九月二十九日

今日の季語のご紹介は“メジロ”(めじろ)です。
スズメより小型で、目の周りが白くふち取られているのが特徴です。
メジロは梅の花蜜に目がなく早春には梅の木に集まってくるのでウグイスと見間違うこともありますね。

九月三十日

今日の季語のご紹介は“菊人形”(きくにんぎょう)です。
等身大のお人形の衣装を菊の花で飾りつけたものをいいます。江戸本郷の団子坂や両国国技館等が有名ですね。

十月一日

今日の季語のご紹介は“秋祭”(あきまつり)です。
秋に催されるお祭りの総称で、主に収穫を感謝して行われます。

十月二日

今日の季語のご紹介は“干し柿”(ほしがき)です。
渋柿の果実を天日干して、乾燥させたドライフルーツです。表面に付着している白い粉は、柿の実の糖分が結晶化したものです。

十月三日

今日の季語のご紹介は“秋深し”(あきふかし)です。
秋の気配が深まっていく様子をさします。

十月四日

今日の季語のご紹介は“早稲”(わせ)です。

8月に穂が出て 9 月には刈りとることができる、早くに実る品種の稲をさします。北国では寒さの来る前に収穫できるように、早稲を主に栽培しています。

十月五日

今日の季語のご紹介は“鶇”(ひよどり)です。

夏は山に住み、秋になると平地に降りてきます。鳴き声が「ヒーヨ! ヒーヨ!」と聞こえることから、ヒヨドリと呼ばれるようになったとも言われています。

飼い主を見分けることができるほど頭がよく、平安時代にはペットとして貴族の間で飼育することが流行しました。

十月六日

今日の季語のご紹介は“冬瓜”(とうがん)です。

ウリ科に属し、初秋に楕円形の大きな実をつけます。淡泊な味なので、煮物や餡かけ、スープなどに使われたりします。

十月七日

今日の季語のご紹介は“草の穂”(くさのほ)です。

イネ科の雑草によく見られる穂をつけた秋の雑草をいいます。

昔は道端にたくさん生えていたので、遊んだ記憶がある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

十月八日

今日の季語のご紹介は“鱸”(すずき)です。

鱸は出世魚で、地方により呼び名が変わるのが特徴です。淡泊な白身魚なので、和洋中といろいろな料理法で楽しむことができます。

十月九日

今日の季語のご紹介は“野分”(のわき)です。

台風の高古称で、野の草を吹き分けるほどの暴風という意味です。

十月十日

今日の季語のご紹介は“薄紅葉”(うすもみじ)です。

紅葉がうっすらと色づきはじめた様をいいます。